科 目 名	柔道整復実技応用1	学 年	1 年 期生
担 当 者		期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、基本包帯法を修得するために,その修得に必要な固定の目的を理解し、

包帯の知識・部位別包帯法の技術を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	1	固定 ／ 巻軸帯について	固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻軸帯の巻き方が修得できる。
2	4	19	1	基本包帯法	環行帯・螺旋帯・蛇行帯が修得できる。
3	4	26	1	基本包帯法	折転帯・亀甲帯・麦穂帯・三角巾施行が修得できる。
4	5	10	1	部位別包帯法	肩部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
5	5	17	1	部位別包帯法	肘部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
6	5	24	1	部位別包帯法	前腕部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※コーレス骨折固定含む
7	5	31	1	部位別包帯法	手関節部・手指部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※第5中手骨頸部骨折含む
8	6	7	1	部位別包帯法	大腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
9	6	14	1	部位別包帯法	膝関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
10	6	21	1	部位別包帯法	下腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※下腿骨幹部骨折含む
11	6	28	1	部位別包帯法	足関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
12	7	5	1	部位別包帯法	足趾部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
13	7	12	1	部位別包帯法	背部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
14	7	19	1	部位別包帯法	肋骨部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※肋骨骨折含む
15	7	26	1	包帯法	本講義で学んだ包帯法が実践できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	90%	包帯固定学 改訂第2版 南江堂	
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科 目 名	柔道整復実技応用2	学 年	1 年 期生
担 当 者		期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、テーピングの基礎知識を理解し、身体の機能解剖を考え各スポーツ競技に合わせた

基礎的なテーピング技術を身につける

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	2	テーピングの理論	目的、基礎的な知識や使用方法を説明できる。
2	4	19	2	テーピングの使用方法	テーピングのカットの仕方・貼布方法などの説明、注意事項を説明できる。アンダーラップの使い方を説明できる。
3	4	26	2	テーピングの実際 足関節部	足関節捻挫の概念・予防としてのテーピング法を説明できる。
4	5	10	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
5	5	17	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
6	5	24	2	テーピングの実際 膝関節部	膝部軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
7	5	31	2	テーピングの実際 大腿部	大腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
8	6	7	2	テーピングの実際 下腿部	下腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
9	6	14	2	テーピングの実際 指部・手関節部	指部・手関節部損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
10	6	21	2	テーピングの実際 足部障害	足底筋膜炎などの足部障害に対する、テーピングを説明・修得できる。
11	6	28	2	テーピングの実際 足趾部	スポーツ競技での足趾部のテーピングを説明・修得できる。
12	7	5	2	テーピングの実際 肩部・腰部痛	肩部・腰部痛のテーピングを説明・修得できる。
13	7	12	2	テーピングの実際 膝関節・下腿部(アキレス腱)	膝関節・下腿部(アキレス腱)のテーピングを説明・修得できる。
14	7	19	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。
15	7	26	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	90%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	テーピングの実技と理論 文光堂 プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用3	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用3において臨床上、遭遇する可能性の高い鎖骨骨折、上腕骨近位端骨折について、損傷の概要や特徴について、基本的な知識や固定の方法を理解し、実践する。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、鎖骨、上腕骨近位骨折の発生機序、症状、合併症、整復方法、固定方法を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	3	4	鎖骨骨折の病態と鑑別	鎖骨骨折の病態と鑑別方法を説明できる
2	10	10	4	鎖骨骨折の整復方法	鎖骨骨折の病態と整復方法を説明できる
3	10	17	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
4	10	24	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
5	10	31	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
6	11	7	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
7	11	14	4	鎖骨骨折の固定法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
8	11	21	4	鎖骨骨折の固定法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
9	11	28	4	鎖骨骨折の後療法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
10	12	5	4	上腕骨外科頚の病態	上腕骨外科頚骨折の病態を説明できる
11	12	12	4	上腕骨外科頚の整復方法	上腕骨外科頚骨折の整復方法を説明できる
12	12	19	4	上腕骨外科頚の固定	上腕骨外科頚骨折の固定方法を説明できる
13	12	26	4	上腕骨外科頚の固定	上腕骨外科頚骨折の固定方法を説明できる
14	1	9	4	上腕骨外科頚の固定	上腕骨外科頚骨折の固定方法を説明できる
15	1	16	4	上腕骨外科頚の後療法	上腕骨外科頚骨折の固定方法を説明できる

評価基準		教科書	参考書
実技	100%	柔道整整復学・実技編　改定第2版	
	%	柔道整整復学・理論編　改定第7版	
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

科 目 名	柔道整復実技応用4	学 年	1 年 期生
担 当 者		期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを
身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得する事ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
2	10	11	1	コーレス骨折	徒手整復法・神経学的検査法を説明、修得できる。
3	10	18	1	コーレス骨折	厚紙副子・クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
4	10	25	1	コーレス骨折	診察・整復・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	11	1	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概要等を説明できる。
6	11	8	1	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
7	11	15	1	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
8	11	29	1	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事がきる。
9	12	6	1	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
10	12	13	1	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
11	12	20	1	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
12	12	27	1	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
13	1	10	1	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
14	1	17	1	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
15	1	24	1	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW
	%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用5	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が各脱臼の注意するべき点を解説し、整復の基本動作、バイタルチェック、 脱衣の方法などを実習を行い解説する。		

一般目標(GIO)

肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障の基本的な整復動作について、
なぜそのような動作をおこなう必要があるのか、整復動作をおこなう際の注意点などを十分理解したうえで
的確な動作をおこなえるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	6	3	肩鎖関節上方脱臼の概説	発生機序、分類、症状、合併症・後遺症 鑑別するべき疾患を理解する。
2	4	13	3	肩鎖関節上方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを 理解する。
3	4	20	3	肩鎖関節上方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の 流れを正確におこなうことができるようになる。
4	4	27	3	肩鎖関節上方脱臼の整復	指定した時間以内に整復動作およびそれに付随する
5	5	11	3	肩関節前方脱臼の概説	発生機序、症状、合併症、後遺症を理解する。
6	5	18	3	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の動作およびそれに付随する一連の流れを 理解する。
7	5	25	3	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の整復動作およびそれに付随する一連の 流れを正確におこなうことができるようになる。
8	6	1	3	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の整復動作およびそれに付随する一連の 流れを指定した時間内に完了できるようになる。
9	6	15	3	肘関節後方脱臼の概説	発生機序、症状、合併症、後遺症を理解する。
10	6	22	3	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを 理解する。
11	6	29	3	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の 流れを正確におこなうことができるようになる。
12	7	6	3	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の 流れを指定した時間内に完了できるようになる。
13	7	13	3	肘内障の概説	発生機序、症状、鑑別疾患を理解する。
14	7	20	3	肘内障の整復	整復動作およびそれに付随する一連の 流れを正確におこなうことができるようになる。
15	7	27	3	肘内障の整復	整復動作およびそれに付随する一連の 流れを指定した時間内に完了できるようになる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編　改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　　2限目(10:40～12:10)　　3限目(12:40～14:10)　　4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用6	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用6において臨床上、遭遇する可能性の高い上肢損傷について、基本的な固定法を修得するための実技を行う。		

一般目標(GIO)

本科目は、上肢の脱臼において、基礎的な固定方法に加え、

臨床でも使用することが出来る固定の手順・方法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	7	4	肩鎖関節の解剖	肩鎖関節周辺の解剖・構造が説明できる。
2	4	14	4	肩鎖関節脱臼固定	固定具が作成できる。
3	4	21	4	肩鎖関節脱臼固定	肩鎖関節脱臼の固定を実演し、実践できる。
4	4	28	4	肩関節の解剖	肩関節周辺の解剖・構造が説明できる。
5	5	12	4	肩関節前方脱臼固定	固定具が作成できる。
6	5	19	4	肩関節前方脱臼固定	肩関節前方脱臼の固定を実演し、実践できる。
7	5	26	4	固定動作の復習	固定動作を再確認し、細かな部分まで指摘できる。
8	6	2	4	肘関節の解剖	肘関節周辺の解剖・構造が説明できる。
9	6	9	4	肘関節後方脱臼固定	固定具が作成できる。
10	6	16	4	肘関節後方脱臼固定	肘関節後方脱臼の固定を実演し、実践できる。
11	6	23	4	指節間関節の解剖	指節間関節周辺の解剖・構造が説明できる。
12	6	30	4	手指PIP関節背側脱臼固定	固定具が作成できる。
13	7	7	4	手指PIP関節背側脱臼固定	手指PIP関節背側脱臼の固定を実演し、実践できる。
14	7	14	4	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。
15	7	28	4	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%	柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用7	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実応用7において臨床上、遭遇する可能性の高い病態についての理学所見、可動域検査、腱反射、病的反射について、基本的な知識や技術を修得するために講義を行う		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に行うためには、まず整形外科的な理学検査をして鑑別を行うわないといけない。各部位の関節の特性を理解したうえで、病態把握をするための理学検査を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	5	2	理学所見の考え方	問診や理学検査の思考の手順を説明できる
2	4	12	2	足部の理学所見の取り方	足部の可動域検査と理学検査ができる
3	4	19	2	膝部の理学所見の取り方	膝部の可動域検査と理学検査ができる
4	4	26	2	膝部の理学所見の取り方	膝部の可動域検査と理学検査ができる
5	5	10	2	股関節の理学所見の取り方	股関節部の可動域検査と理学検査ができる
6	5	17	2	股関節の理学所見の取り方	股関節部の可動域検査と理学検査ができる
7	5	24	2	手肘の理学所見の取り方	手肘部の可動域検査と理学検査ができる
8	5	31	2	肩の理学所見の取り方	肩部の可動域検査と理学検査ができる
9	6	7	2	肩の理学所見の取り方	肩部の可動域検査と理学検査ができる
10	6	14	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
11	6	21	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
12	6	28	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
13	7	5	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる
14	7	12	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる
15	7	19	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整整復学・理論編　改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

科 目 名	柔道整復実技応用8	学 年	2 年 期生
担 当 者		期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法を
身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	27	2	肩腱板損傷	肩腱板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	4	2	肩腱板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
3	10	11	2	上腕二頭筋腱損傷	上腕二頭筋腱損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
4	10	18	2	上腕二頭筋腱損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	10	25	2	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
6	11	1	2	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
7	11	8	2	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
8	11	15	2	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
9	11	22	2	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
10	11	29	2	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
11	12	6	2	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
12	12	13	2	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
13	12	20	2	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
14	12	27	2	各傷病のまとめ	診察及び整復・検査方法が説明できる。
15	1	10	2	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査および固定方法が説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW
	%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科 目 名	柔道整復実技応用9	学 年	2 年 期生
担 当 者		期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを
身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	27	3	ハムストリング損傷	ハムストリング損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	4	3	ハムストリング損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
3	10	11	3	ハムストリング損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
4	10	18	3	大腿四頭筋打撲	大腿四頭筋打撲の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
5	10	25	3	大腿四頭筋打撲	診察法・検査法・評価法を修得できる。
6	11	1	3	大腿四頭筋打撲	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
7	11	8	3	膝関節側副靭帯損傷	膝関節側副靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
8	11	15	3	膝関節側副靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
9	11	22	3	膝関節側副靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
10	11	29	3	膝関節十字靭帯損傷	膝関節十字靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
11	12	6	3	膝関節十字靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
12	12	13	3	膝関節十字靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
13	12	20	3	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
14	12	27	3	膝関節半月板損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
15	1	10	3	膝関節半月板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW
	%		

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用10	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用10において臨床上、遭遇する可能性の高い足関節外側側副靭帯損傷、下腿三頭筋の肉離れの概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、足関節部の機能と解剖を踏まえた上で、足関節外側側副靭帯損傷や下腿三頭筋の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、後療法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	26	3	下腿三頭筋肉離れの病態	下腿三頭筋肉離れの病態の説明ができる
2	10	3	3	下腿三頭筋肉離れの理学検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
3	10	10	3	下腿三頭筋肉離れの検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
4	10	17	3	下腿三頭筋肉離れの検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
5	10	24	3	下腿三頭筋肉離れの処置	下腿三頭筋の肉離れの処置ができる
6	10	31	3	下腿三頭筋肉離れの処置	下腿三頭筋の肉離れの処置ができる
7	11	7	3	下腿三頭筋肉離れのリハ	下腿三頭筋の肉離れの後療法ができる
8	11	14	3	足関節の触診	足関節の靭帯の触診ができる
9	11	21	3	足関節の病態	足関節外側側副靭帯損傷の病態が説明できる
10	11	28	3	足関節の検査方法	足関節の検査方法が説明できる
11	12	5	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
12	12	12	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
13	12	19	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
14	12	26	3	足関節リハの方法	足関節の後療法が説明できる
15	1	9	3	復習	下腿三頭筋肉離れと足関節外側側副靭帯靭帯損傷の復習をし、知識を定着させる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整整復学・理論編　改定第5版	
	%	柔道整整復学・実技編　改定第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用11	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が各損傷の症状などの注意すべき点を解説し、基本的な固定について実習形式で教授する。		

一般目標（GIO）

アキレス腱断裂、足関節外側靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷の症状などを理解したうえで、基本的な固定を的確におこなうことができるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	10	5	1	アキレス腱断裂概説	アキレス腱断裂の発生機序、症状を理解する。
2	10	12	1	アキレス腱断裂の固定	固定手順を理解する。
3	10	19	1	アキレス腱断裂の固定	指定した時間内に正しい固定手順が施工できるようになる。
4	10	26	1	足関節外側靭帯損傷概説	足関節外側靭帯損傷の発生機序、症状を理解する。
5	11	2	1	足関節外側靭帯損傷の固定	固定手順を理解する。
6	11	9	1	足関節外側靭帯損傷の固定	指定した時間内に正しい固定手順が施工できるようになる。
7	11	16	1	バスケットウィーブテープ	テーピングの走行を理解する。
8	11	30	1	バスケットウィーブテープ	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
9	12	7	1	フィギュアエイト・ヒールロック	テーピングの走行を理解する。
10	12	14	1	フィギュアエイト・ヒールロック	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
11	12	21	1	膝関節側副靭帯損傷概説	膝関節側副靭帯損傷の発生機序、症状を理解する。
12	1	11	1	Xサポートテープ	テーピングの走行を理解する。
13	1	18	1	Xサポートテープ	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
14	1	25	1	固定の総復習	固定手順を再確認し、時間内に施工できるようになる。
15	2	1	1	固定の総復習	固定手順を再確認し、時間内に施工できるようになる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編　改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

科　目　名	柔道整復実技応用12	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学13において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

本科目は、臨床上、症状把握に必要な診察法・テスト法を学び、実技を通して的確な方法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	3	鎖骨骨折	リング帯・8字帯・セイヤーテープ固定の方法を理解する。
2	4	17	3	上腕骨骨幹部骨折	ミッデルドルフ三角副子固定の方法を理解する。
3	4	24	3	コーレス骨折	クラ―メル副子と局所副子固定の方法を理解する。
4	5	1	3	第5中手骨頸部骨折	アルミ副子掌側固定の方法を理解する。
5	5	8	3	下腿骨骨幹部骨折	クラ―メル副子固定の方法を理解する。
6	5	15	3	肋骨骨折	さらしと厚紙副子固定の方法を理解する。
7	5	22	3	肩鎖関節上方脱臼	ワトソンジョーンズテープ固定の方法を理解する。
8	5	29	3	肩関節前方脱臼	局所副子・三角巾固定の方法を理解する。
9	6	5	3	肘関節後方脱臼	クラ―メル副子・三角巾固定の方法を理解する。
10	6	12	3	手第2指PIP背側脱臼	アルミ副子背側固定の方法を理解する。
11	6	19	3	アキレス腱断裂	クラ―メル副子固定の方法を理解する。
12	6	26	3	足関節外側靭帯損傷	局所副子固定の方法を理解する。
13	7	3	3	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポートテープ固定の方法を理解する。
14	7	10	3	足関節外側側副靭帯損傷	バスケットウィーブテープ固定の方法を理解する。
15	7	24	3	足関節外側側副靭帯損傷	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定の方法を理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編　改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

科 目 名	柔道整復実技応用13	学 年	3 年 期生
担 当 者		期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義 ・ 実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用13において臨床上起こりうる事象と照合しそれに対して認定実技審査対応の実技応用を行う。		

一般目標(GIO)

本科目は、認定実技審査に備えるため、知識、認識を深めることを目的とする。

その中でも下肢の体表解剖・検査法の理解と正しい実施方法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	7	3	柔整実技応用9項の復習	大腿部損傷の症状・所見の説明が出来る。
2	4	14	3	柔整実技応用9項の復習	大腿部損傷の検査法・実施の説明が出来る。
3	4	21	3	柔整実技応用9項の復習	膝関節損傷の症状・所見の説明が出来る。
4	4	28	3	柔整実技応用9項の復習	膝関節損傷の検査法・実施の説明が出来る。
5	5	12	3	柔整実技応用9項の総復習	1～4回の内容を復習・実施し学生同士で指摘する。
6	5	19	3	柔整実技応用10項の復習	下腿三頭筋・足関節損傷の症状・所見の説明が出来る。
7	5	26	3	柔整実技応用9・10項の総復習	1～6回の内容を復習・実施し学生同士で評価する。
8	6	2	3	認定審査項目の復習	上肢・上肢帯の損傷を症例別に説明できる。
9	6	9	3	認定審査項目の復習	上肢・上肢帯損傷を認定実技審査の手順で実施できる。
10	6	16	3	認定審査項目の復習	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘する。
11	6	23	3	8～10項の復習	グループ作成し学生同士で評価する。
12	6	30	3	認定審査項目の復習	体幹・下肢の損傷を症例別に説明できる。
13	7	7	3	認定審査項目の復習	体幹・下肢損傷を認定実技審査の手順で実施できる。
14	7	14	3	認定審査項目の復習	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘する。
15	7	28	3	1～14回までの総復習	グループ作成し学生同士で評価する。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	80%	柔道整復学・実技編	
実習態度	20%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30) 2限目(10:40～12:10) 3限目(12:40～14:10) 4限目(14:20～15:50)

科　目　名	柔道整復実技応用14	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標（GIO）

本科目は、認定実技審査対応の為、共通認識と技術の向上を目的とする。

また、その中でも上肢の骨折・脱臼の理解とそれに応じた正しい整復法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	9	26	1	鎖骨骨折①	左記の症状・所見を説明出来る。
2	10	3	1	鎖骨骨折②	左記の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
3	10	10	1	上腕骨外科頚移転型骨折①	左記の骨折の症状・所見の説明が出来る。
4	10	17	1	上腕骨外科頚移転型骨折②	左記の骨折の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
5	10	24	1	コーレス骨折①	左記の骨折の症状・所見の説明が出来る。
6	10	31	1	コーレス骨折②	左記の骨折の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
7	11	7	1	肩鎖関節上方脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
8	11	14	1	肩鎖関節上方脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
9	11	21	1	肩関節前方烏口下脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
10	11	28	1	肩関節前方烏口下脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
11	12	5	1	肘関節後方脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
12	12	12	1	肘関節後方脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
13	12	19	1	肘内障①	肘内障の症状・所見の説明が出来る。
14	12	26	1	肘内障②	肘内障の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
15	1	9	1	1～14回の総復習	全項目を復習し学生同士で評価する。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版	認定実技審査用レジュメ
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）

科　目　名	柔道整復実技応用15	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	接骨院を開業している教員が外科・整形外科領域において臨床上起こりうる事象と照合し現状や課題について解説する。		

一般目標（GIO）

柔道整復実技応用15において臨床上、遭遇する可能性のある整形外科領域および外科領域の外傷や疾患に対する、症状把握に必要な診察法・テスト法・鑑別ポイントを知り、理解した上で実技を行い安全かつ的確な方法を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	9	27	3	整形外科診察法	姿勢異常や跛行などについて整形外科的な診察法について説明できる。
2	10	4	3	整形外科検査法	X線やMRIなどについて整形外科の各種画像検査について説明できる。
3	10	11	3	骨・関節損傷総論	各部位の骨折や脱臼などについて整形外科的な捉え方について説明できる。
4	10	18	3	スポーツ整形外科総論	スポーツ分野における特徴的な損傷について、整形外科的な対応を説明できる。
5	10	25	3	疾患別各論①	骨および軟部組織腫瘍について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
6	11	1	3	疾患別各論②	骨および軟部組織腫瘍について整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
7	11	8	3	疾患別各論③	全身性の骨・軟部疾患について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
8	11	15	3	身体部位別各論	身体各部位ごとの損傷や疾患について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
9	11	22	3	損傷	損傷の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
10	11	29	3	炎症と外科感染症	炎症の定義や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
11	12	6	3	腫瘍	腫瘍の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
12	12	13	3	ショック	ショックの分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
13	12	20	3	消毒と滅菌	消毒の分類や特徴などについて外科的な処置などについて説明できる。
14	12	27	3	移植と免疫	移植の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
15	1	10	3	組織別各論	各組織における損傷や疾患の特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%	柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%	整形外科学	
	%	外科学概論	

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

科　目　名	柔道整復実技応用16	学　　年	3 年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標（GIO）

本科目は柔道整復師になるために必要な固定法を習得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	9	26	1	鎖骨骨折の固定法	リング・8字帯・セイヤ―テープ固定が理解できる
2	10	3	1	上腕骨骨幹部骨折の固定法	ミッデルドルフ三角副子固定が理解できる
3	10	10	1	コーレス骨折の固定法	クラーメル・局所副子・三角巾固定が理解できる
4	10	17	1	第5中手骨頸部骨折の固定法	アルミ副子掌側固定が理解できる
5	10	24	1	下腿骨骨幹部骨折の固定法	クラーメル副子固定が理解できる
6	10	31	1	肋骨骨折の固定法	さらし・厚紙副子固定が理解できる
7	11	7	1	肩鎖関節上方脱臼の固定法	テープ固定が理解できる
8	11	14	1	肩関節前方脱臼の固定法	局所副子・三角巾固定が理解できる
9	11	21	1	肘関節後方脱臼の固定法	クラーメル副子・三角巾固定が理解できる
10	11	28	1	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法	アルミ副子背側固定が理解できる
11	12	5	1	アキレス腱断裂の固定法	クラーメル副子固定が理解できる
12	12	12	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	局所副子固定が理解できる
13	12	19	1	膝関節内側側副靭帯損傷の固定法	Xサポート固定が理解できる
14	12	26	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	バスケットウィーブ固定が理解できる
15	1	9	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	フィギュアエイト・ヒールロックを理解できる

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	南江堂　柔道整復学　実技編	
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	柔道整復実技応用17	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

本科目は，認定実技審査対応の為，共通認識と技術の向上と時間配分の上達を目的とする.
また，その中でも効率的な整復操作・検査法・固定法の手順を身につける.

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	21	4	認定実技審査会場の想定①	試験官に対しての礼儀を説明出来る.
2	9	28	4	認定実技審査会場の想定②	入退室マナーを学生同士で指摘する.
3	10	5	4	認定実技審査会場の想定③	ベッドに対しての適切な立ち回りが説明出来る.
4	10	12	4	患者誘導①	疾患に応じた患者への配慮が説明出来る.
5	10	19	4	患者誘導②	疾患に応じた患肢のポジショニングが説明出来る.
6	10	26	4	患者誘導③	助手を用いた体位変換が説明出来る. また実施出来る.
7	11	2	4	検査手順①	疾患応じた検査を手際よく行う. また学生同士で指摘する.
8	11	9	4	検査手順②	検査項目を反復練習し学生同士で指摘する.
9	11	16	4	検査手順③	効率的な検査手順を説明出来る.
10	11	30	4	固定法①	疾患に応じた固定法を手際よく行う. また学生同士で指摘する.
11	12	7	4	固定法②	効率的な固定手順を説明出来る.
12	12	14	4	整復操作①	疾患に応じた整復操作を手際よく，かつ丁寧に行い学生同士で指摘する.
13	12	21	4	整復操作②	効率的な整復操作を説明出来る.
14	1	11	4	第1～7回の総復習	無駄のない立ち回りが実施出来る.
15	1	18	4	第7～14回の総復習	的確な検査・固定・整復が実施出来る.

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編	認定実技審査用のレジュメ
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科　　No 1

科　目　名	高齢者の外傷予防	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	15時間　8回	専任　・　兼任	兼任
実務経験			

一般目標（GIO）

高齢者にみられる疾患や外傷を理解し，介護予防も含めた機能訓練指導法を習得する．
第8回授業では，機能訓練で提供する運動（ストレッチング・筋力向上運動等）を座学で学んだ知識を関連付けてペアワークを行い，高齢者の外傷および介護予防が実践できるようになる．

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	6	1	4	柔道整復師と介護保険	介護保険制度における柔道整復師の役割を理解する．
2	6	15	4	人間の成長と発達の基礎的理解	老年期の発達と成熟とはなにか理解する。
3	6	22	4	老化に伴う心身の変化と日常生活	老化における形態的変化および機能的変化を理解する．
4	6	29	4	エイジング理論	老化とはなにか．老化の心理的影響について理解する．
5	6	7	4	高齢者の疾患	高齢者にみられる疾患（骨粗鬆症等）について理解する．
6	7	13	4	認知症の理解	認知症とはなにか．三大認知症について理解する．
7	7	20	4	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドローム，運動器不安症について理解する．
8	7	27	4	機能訓練で提供する運動と要点	姿勢バランス評価および運動など実際に行い理解する．
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復師と機能訓練指導(機能訓練指導員養成テキスト	健康運動実践指導者養成用テキスト （公益財団法人健康・体力づくり事業財団）
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

科　目　名	競技者の外傷予防	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	15時間　15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

競技者特有の外傷・傷害に対し，治療・施術を行うだけでなく，運動生理学の観点から効果的な予防対策を実践していくことができる知識・技術を獲得することを目的とする．

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	21	1	運動生理学Ⅰ	運動のメリット・デメリット，エネルギー代謝について説明できる．
2	9	28	1	運動生理学Ⅱ	運動と骨・筋肉および呼吸・循環との関係を理解できる．
3	10	5	1	運動生理学Ⅲ	運動とホルモンの関係，競技者の特徴を理解できる．
4	10	12	1	競技者の外傷予防Ⅰ	外傷予防の概要を理解できる．
5	10	19	1	競技者の外傷予防Ⅱ	外傷予防の発生要因を理解し，予防策を考えられる．
6	10	26	1	メディカルチェック	関節弛緩性，筋のタイトネスなどを測定することができる．
7	11	2	1	コンディショニング	外傷予防に必要なコンディショニングの方法を理解できる．
8	11	9	1	確認筆記試験	筆記テストを行うことで知識を深く理解できる．
9	11	16	1	肩関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
10	11	30	1	体幹の外傷予防	体幹の外傷メカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
11	12	7	1	膝関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
12	12	14	1	足関節の外傷予防	足関節外傷のメカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
13	12	21	1	成長期の外傷予防	成長期の外傷メカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
14	1	11	1	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷メカニズムを理解し，予防トレーニングを実践できる．
15	1	18	1	第1～14回の総復習	1～14回の内容をまとめより深く理解できる．

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	競技者の外傷予防 生理学(改訂第4版)	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)